

# 学校だより 希望の鐘

ひとつのつぼみはいつしかひらかない



## 八戸市立 小中野中学校

平成30年10月3日(水)

No.132 文責：校長  
工藤聡

### 選挙では、しっかり判断してください

平成27年6月に公職選挙法という法律の一部が改正され、それまで満20歳以上であったものが、満18歳以上の人から選挙に参加できるようになりました。ですから、3年生であれば、あと3年くらいで実際に投票することができるようになります。なぜ、選挙権の年齢が18歳に引き下げられたかという、若者の声を政治に反映させるためだと言われています。ただ、投票に行っても、何を基準に判断すればよいかわからないのでは困ってしまいます。何よりも大切なのは、自分の頭でしっかり考えて判断することだと私は思っています。

小中野中でも、明日が生徒会役員選挙の投票日となります。今回は次の8名の人たちが立候補しています。

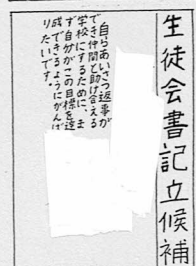
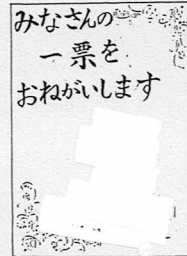
●生徒会長—	さん	●副会長—	さん
さん	●書記—	さん	さん
さん	さん	さん	さん

8名が定員ですから、日本の選挙制度では無投票当選（立候補した人たちが、投票を経ずに全員当選となること）となるわけですが、小中野中では信任投票をします。信任投票というのは、選挙において競争相手がいない時に、その人でよいかどうかを決める投票です。生徒会選挙において信任投票をすることになったのは、私が先生になって経験した次のような経緯があるのではないかと思います。

私がかつて勤務したことのある学校で、つっぱりグループから生徒会選挙に立候補した生徒がいました。仮にA君とします。まさか、A君が立候補するとは誰も思わなかったので、先生も生徒もみんなびっくりしました。後でわかったことですが、つっぱりグループの中で、冗談で選挙に出てみれば…ということになり、ジャンケンで負けたA君が軽いノリで立候補することになったようでした。立ち会い演説会では、ほかの立候補した生徒が、真面目に一生懸命話している中で、「1か月に1回生徒会主催のレクをやる」とか「やらされる宿題よりも、進んでやる勉強の方が大事だから、宿題を減らすように生徒会が先生にお願いをする」といったデタラメなことばかり話し、さらにつっぱりグループの陰のおどしもあって、なんと当選してしまったのです。結局このA君が生徒会役員だった一年間、生徒会活動は大いに停滞（テイタイ：物事がはかどらないこと）してしまいました。A君のほかにも生徒会役員はいたのですが、いつもさぼって適当なA君を見て、やる気をなくしたこともあります。何よりも、そんなA君に面白がって投票したほかの生徒たちの無責任さに失望したことが大きかったと私は見えています。まさしく、生徒一人ひとりが、自分で環境を悪化させた一例でした。そして、翌年からしばらく、そんな生徒ばかり立候補し、いつも無投票で当選することになってしまったのです。

こういったことがないように、信任投票が導入されたのではないかと私は思っています。しかし、小中野中ではこれまでもそうでしたし、今回立候補したどの生徒も生徒会活動に意欲的です。何よりも物凄くしっかりしていると思います。立候補した8名の生徒たちがやらなければ、小中野中の未来はないわけですから、この生徒たちを信任しないという選択肢はないのではないのでしょうか。ただ、投票する際は誰に投票するかは強制されないことになっています。ですから、私も「全員を信任しろ」と言うことはできません。しかしながら、本当にやる気を持って立候補した人に応えるためには、投票するみなさんも、立候補した生徒と同じレベルで考えることが必要だと思います。そして、そうすることが、みなさんが18歳になって選挙権を得た時にも役立つのではないかと私も思います。

最後に、右のものは立候補者の選挙ポスターです。自分で作ったもの、友人と一緒に作ったもの、ご家族と作ったものなど、素晴らしいものばかりだと思います。（名前が小さくて見えないものは、さんのポスターです。）





## みなさんは地域の方の『希望』かもしれませんよ

先月の21日に地域の自主防災組織のご協力を得て、避難所運営訓練を昨年を引き続き行いました。地域住民の方々も100名ほど参加いただいたのですが、その感想を見ることができました。みなさん(中学生)に関わるものをいくつか紹介します。

●生徒さんたちの対応が、昨年より早くなった。(75歳女性) ●中学生がよくやっている。(79歳男性) ●学生さん達の対応がすばらしい。(67歳女性) ●中学生の皆さんの声で元気づけられると思います。(75歳女性) ●中学生がきびきびと動いてくれました。(不明) ●中学生の皆さんが頑張っており、大変良いことだと思います。(74歳男性) ●中学生の働きぶりがよかった。(75歳女性) ●中学生が手伝ってくれてありがたかったです。(不明) ●中学生の生徒さんから元気をもらいました。(80歳女性) ●中学生が素晴らしい。(62歳女性) ●学生の協力がうれしかった。(75歳女性) ●生徒達がきびきびとした動きで気持ちよかったです。(81歳女性) ●生徒のあいさつがとてもさわやかで良かったです。(79歳女性) ●中学生のみなさんの出迎えがうれしかった。(62歳男性) ●中学生の皆さんから元気を得て、力になりました。(81歳男性)

ほとんどが、ご高齢の方からのものですが、みなさんに「元気をもらった」「動きがいい」等のほめる内容でした。一昨日は、台風24号の影響で臨時休校となったわけですが、学校の近所に住まわれている方が、小中野中に避難してきました。避難所は公民館でしたので、私が車で送って行ったのですが、その時に「一人だとこわくてこわくて。避難所に行けば誰かがいると思って来たんですよ」と言っていました。ご高齢の方にとって、子ども(小学生も中学生も)は、未来の希望なのだと思います。子どもが、先日の避難所運営訓練のように頑張っていればうれしいですし、奇声を発したり並列歩行をしていけば「何なんだ☺」ということになるのだと思います。2学期始業式にした話を、もう一度掲載します。

昔、ある親孝行の息子が、足腰の弱った父親を背負って、お殿様の行列を拜ませていると、それがお殿様の目にとまって「感心な若者じゃ。ほうびをつかわせ」ということで、たくさんの品物をちょうだいしました。その話を聞いた親不孝で評判の男が、「うまいことをしやがったな。俺もマネしてほうびにありつこう」ということで、次にお殿様が来る時に、嫌がる父親を背負って、道端で待ち受けていました。ところが、家来は親不孝と知っていましたので「あいつはごほうびを目当てにあんなマネをしています。けしからぬ奴めにごさいますから、逆にこらしめてやりませうか」と申し上げました。お殿様は、おとがめするかと思いきや、「よしよし。親不孝者が親孝行のマネをするとは感心な奴じゃ。ほめてつかわせ。うそでもほうびをとらせよ」とおっしゃられました。その後、その殿様の領内では、ごほうびほしさに親孝行のマネがはやり出しました。しかし、それがうそでもマネでも親孝行の行いをされると、老人たちは真実喜びました。そして、素直に喜ぶ老人を見て、若者たちは心から親やお年寄りを大切にしようになったといえます。

みなさんの避難所運営訓練の行動は、校内における特別のものであったかもしれません。しかしながら、それを見て、喜んだり力を得る方もいっぱいいるのです。そして、そういったことを続けていけば、みなさんの行動は、自然の、心からのものとなっていくのではないのでしょうか。

## 【今日のひとり言】

●昨日は、小中野中が八戸市の中教研の会場ということで、100名以上の先生方が来校し、みなさんの授業の様子を見て行きました。「集中して、しっかり授業に臨んでいる」と多くの方から言われました。普段はそうでない生徒もいるようですので、私としては毎日中教研だといいなあと思ったくらいです。それとともに「校舎がとてもきれいだ」とほめていただきました。新築の校舎であれば当然のことですが、何十年もたった小中野中がきれいだということは、先生や美化委員会を中心とする日常の清掃活動や環境整備がすぐれているということにほかならないと思います。そして、先輩方がきれいな校舎を維持してきたのだと思います。それが伝統となって、現在の校舎があるのです。これも“コナ中プライド”の一つではないでしょうか。

●今日の私の似顔絵は、年組の くん に描いてもらったものです。不思議な迫力を感じさせる似顔絵だと思っています。 くんは、生徒会書記に立候補した くん の応援責任者として、明日の立ち会い演説会でも応援演説をしたいと思います。一生懸命行えば、必ず聞いている人に伝わるはずだと思います。ほかの立候補者や応援責任者も頑張ってください。